

----- 当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。 Copyrighted materials of the authors. -----

AA 研共共課題「身体性の人類学（2）—脱／再身体化のダイナミクス」 2025 年度第 1 回研究会（通算第 1 回目）

日時：2025 年 6 月 14 日（土）

場所：AA 研 306

プログラム：

13:00-13:30 「趣旨説明」 床呂郁哉（AA 研）

13:30-19:00 自己紹介・今後の研究計画に関する討議（全員）

概要：概要：2025 年 6 月 14 日（土）に今年度第 1 回の研究会を実施した。メンバーの顔合わせを兼ねて実施された今回の研究会では、まず代表である AA 研の床呂 所員による本研究課題の趣旨説明を実施した。その概要は下記の通りである。

文化／社会人類学（以下「人類学」）において、＜身体性＞の問題は 20 世紀の人類学の主要な諸潮流のなかで必ずしも中心的な関心の対象であったとは言えない。こうした、いわば「脱身体化」された人類学の状況は、しかしながら近年大きく変容しつつあり、身体性（および身体に密接に関連する「もの」等）への関心が人類学の中で顕在化され（いわば「再身体化」され）つつあると言える。また近年の哲学、認知科学、AI・ロボット研究、言語研究等の分野においても「身体性」の問題は看過しえない問題として（再）浮上しつつある。本研究は、こうした人類学や関連分野の研究動向を踏まえ、先行する AA 研共共課題「身体性の人類学」の後継課題として、更に研究を発展させていくことを目的としている。特に今期では新たに＜脱／再身体化＞といった観点も導入しながら、ともすると静態的（スタティック）枠組みに陥りがちな身体観を批判的に超克し、より動的な身体観への転換を検討していく。このため前期の共同研究課題を引継ぎながらも、今期では新たに言語学や認知科学・ロボット研究等の研究者も加え、広義の文理越境的な側面も備えた学際共同研究として更に研究を拡張することを目的としている。

以上の趣旨説明等について、休憩をはさんで参加者全員によるやや詳しい自己紹介と、今後の本課題の進め方に関する打ち合わせ等を実施した。

（以上、終わり）